

# 秋田県 高P連会報



No. 115

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社

「男鹿を望む」  
写真：長澤 善徳 氏

## ■ 秋田からの発信 県高校PTA連合会副会長 石井 広樹

平成26年度は、第63回東北地区高等学校PTA連合会大館大会が開催され、会員の皆様から多くのご協力を頂き誠にありがとうございました。特に県北地区の会員皆様の「おもてなし」と、公演の「ヘレン・ケラー」は心に強く響きました。

また第29回国民文化祭・あきた2014では各地域で高校生の活躍が期間中の紙面、報道にて知ることができ、大会を成功へと導く大きな力になった事は間違いありません。「過去から、現在、そして未来へつなぐ」という思いが発信された一年であったように感じます。秋田から更なる次のステージへ発信！



# テーマ「教育と考福」 ～未来に引き継ぐ 知と恵み～

## 第64回全国高校PTA連合会大会

# 福井大会



大会シンボルマーク

平成26年8月21日(木)～23日(土) 福井県福井市

### 全国高P連会長表彰

団体

県立大館高校  
県立六郷高校

個人

草別 春徳  
(県立大曲農業高校太田分校前PTA会長)  
鈴木 朋子  
(県立秋田明德館高校前PTA会長)



安政の大獄に散った  
福井藩の俊英

**橋本左内** はしもと さない  
1834～1859



福井県は多くの偉人を輩出して  
きましたが、その筆頭に挙げられるのが、幕末に活躍し  
た志士、橋本左内です。

橋本左内は幕末の天保5年(1834)3月、福井藩で奥  
医師を務めていた橋本長綱の長男として生まれました。  
15歳のとき、有名な『啓発録』を著します。「稚心を去る」  
「気を振る」「志を立てる」「学に勉める」「交友を択ぶ」の  
5か条の自分の志を記したものです。



16歳の冬、大阪に出て緒方洪庵が主催する「適塾」で  
蘭方医学を学びます。この修業中に、熊本藩の横井小楠  
や小浜藩の梅田雲浜らと交流しています。安政2年  
(1855)、医員を免じられ書院番となりました。土分に列  
せられた左内は江戸出府を命じられ、そこで薩摩藩の西  
郷吉之助(西郷隆盛)らと交流を深めます。やがて福井藩  
主の松平春嶽に側近として重用されるようになり、藩医  
や藩校明道館学監心得となりました。

藩主の松平春嶽が深く関わった14代將軍継嗣問題で  
は、左内は春嶽の懐刀として、西郷吉之助と手を携えて  
一橋慶喜擁立運動に奔走。幕政改革を唱えました。また、  
先進的な開国論を展開しました。しかし、安政6年  
(1859)、大老に就任した井伊直弼の安政の大獄で捕縛  
され、斬首となりました。享年26歳という若さでした。





●大会会長 式辞  
全国高P連会長 佐野 元彦

## 全国高P連会長表彰 受賞者コメント

20年続いたPTA活動を一昨年に卒業しました。今思えばあっという間に過ぎ去った時間でした。高校ではPTA会長を2年。最後の年には県高P連の母親委員長兼副会長をさせていただきました。

子育ては親育てと言います。私を育ててくれた子どもたちに、学校に、仲間たちに感謝しながら、これからはこの経験を活かし社会に貢献できればと考えております。県高P連の更なる発展を陰ながら応援しております。この度は誠にありがとうございました。

(県立秋田明徳館高校前PTA会長)

鈴木 朋子

この度、福井大会に於いて全国表彰を受け大変嬉しく思っています。更に全国の会長になられた県連の佐野会長さんからの表彰ということで感激もひとしおですし、事務局のお計らいにも感謝しています。これも全て単P、県P、東北、全国の同志の仲間と共に授けられたものと思っています。

今後、佐野会長さんには秋田の素晴らしい所を全国へ発信し、全国高P連の発展のためにご尽力されます様願っています。長い間、本当にお世話になりました。

(県立大曲農業高校太田分校前PTA会長)

草別 春徳



記念品は超軽量  
越前和紙掛時計





# 第27回 母親会員交流会

～きびしさのなかに愛を やさしさのなかに節度を～

研究主題「家庭の果たす役割 子どもと共に成長を」

平成26年9月11日(木) 秋田県生涯学習センター

## ●来賓祝辞



秋田県教育庁生涯学習課長  
平川 祐作 様

## ●あいさつ



秋田県高校PTA連合会 会長  
佐野 元彦

## 交流会 有意義な一日を

今年度は濱田純先生をお迎えして「はじめまして息子よ」という、花と暖かい詩で綴られた詩画集をひもときながら、子育てについての講演をして頂きました。皆さんそれぞれに、生まれた頃の我が子の姿を脳裏に浮かべ、親子共々に歩いて来た月日に思いを馳せました。そして今まだ子供の成長を願う子育て中の私達に、先生のお話は多少の反省や後悔を醸し出させつつ、それ以上にやる気、元気、喜びが湧いてくるような、心に感じるものでした。

午後からは珈琲を飲みながらのグループ討議と、「心に豊かさを」をテーマに自由にお花を生けました。参加された方々からは「同じ様な悩みを持つお母さん達と話し合う事ができ気持ちが楽になった。」「お花を通して自分の感性が磨かれ楽しかった。」など嬉しいお言葉をたくさん頂きました。

何よりもこの交流会を通して私自身が充実した有意義な時間を過ごす事ができたと感じています。本当に素晴らしい、楽しい一日でした。

秋田県高校PTA連合会  
母親委員会委員長 楊 葉子



## 母親交流会に参加して

今年度初めて母親交流会に参加させていただきました。午前中の講演に続き午後から行われたグループ別討議では、活発な情報交換がされました。私が唯一の男性参加者であったため、「父親目線の意見が聞きたい」と求められ、家庭での子供とのやりとりや、親としての考えなどを話させていただきました。どのお母さんも必死で子供と向き合っている様子が感じられ、自分自身、親としてしっかりしなければと教えられた会になりました。

秋田市立御所野学院高校  
PTA担当 後藤 弘康



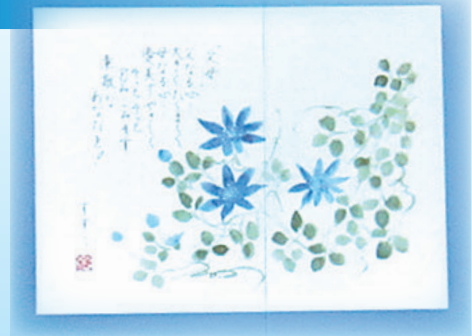


# はじめまして 息子よ！



講師 国立大学法人 秋田大学  
地域創生センター準教授  
北秋田分校長

濱田 純 様



## ● 全体講評



秋田県教育庁生涯学習課  
社会教育主事

森川 勝栄 様

## ● あいさつ



岩手県高校PTA連合会  
母親委員会委員長

佐々木 秀子 様



## 日程表

9:40	10:10	10:40	12:10	13:00	14:20	14:30	15:10	15:30
受付	開会 行事	講演 質疑応答	昼食	グループ別討議 ほっと一息、コーヒーを飲みながら	野の花を生けよう 花のある暮らし、心に豊かさを	閉会 行事		





# 『教育懇談会』

平成26年11月18日(火) 秋田県生涯学習センター

県教委から高校教育課 鎌田課長、伊藤主幹(兼)班長、生涯学習課 平川課長、小玉副主幹(兼)班長、森川社会教育主事、高校長協会2名を迎え、県高P連からは、佐野会長、副会長、理事9名、事務局2名、計18名が参加した。

- テーマは、
1. インターネットセキュリティ
    - \* ラインの実態と対策
  2. 進路
    - \* 地元就職率
    - \* 進学後、地元に戻ってくる人数
  3. 給付型奨学金制度

今回は、2.進路について、湯沢翔北高校PTA会長 和賀幸雄氏の想いを紹介する。



## ふるさと定住を目指したキャリア教育を！

秋田県高校PTA連合会／進路対策委員会担当副会長  
**和賀幸雄**

秋田県の人口は近年毎年一万人以上が減少しており、14歳以下の人口比率は全国最低で、少子高齢化の深刻化は全国でも際立っています。また15年後の高校受験者数はこの春の60%以下になることが予想されており、採用意欲が旺盛な首都圏や都市圏の企業等に若者が流出することが予想される中、秋田県内企業の人材確保が非常に困難になることを意味しております。

高等学校PTA活動における進路対策委員会の活動はこれまで、各高校での取り組みの紹介や情報交換、また進路意識調査を実施してリーフレットを作成するなど主なものであります。しかしながら、進学する生徒が多い高校と就職する生徒が多い高校とでは、取り組みそのものが異なり、他校の活動が参考にならないという問題があります。

平成11年に中央教育審議会により「キャリア教育」の必要性が答申され、進路選択能力や職業人としての資質の形成を目的として、高校教育の現場でもインターンシップや施設・職場見学が行われております。しかしここでもいわゆる進学校と言われている高校と、そうではない高校では全く異なった取り組みがなされております。大学進学率の高い高校ではインターンシップが全く行われていないか、ごく限られた職業に対してしか行われていないのが現状です。

一方で、県内各地にこれまで誘致された工場においては、高卒者だけではなく大学卒業生も積極的に採用している企業が多くあります。また可能であれば地元出身の大卒者を採用したいのに、応募者が県外出身者のみであったとの声を聞くこともあります。つまり現在行われているキャリア教育と地元企業との間に、明らかなギャップが存在しているということになります。

これからのキャリア教育では、社会に貢献しているエクセレントカンパニーが私たちの地元存在していることを、小学校・中学校などの早い段階から職場見学・社会見学で体験させ、進学校においても工学部や理学部で何を専攻すればいいのか、さらに具体的にはどの大学・学部・学科のどの教授の下で研究すればいいのかまで落とし込んでキャリア教育を実施することが、優秀な人材をそれぞれの地元で定住させる有効な手立てではないかと考えます。

今後の高等学校PTAの取り組みとしては、地元企業や商工団体等との幅広い意見交換の場を持ち、地元にはどのような企業が有り、求める人材とはどのような人材なのかを学校と保護者と共有することが重要であると思います。若者が定住できるまちづくりを目指すことがPTAにも求められているのではないのでしょうか。



# 最優秀賞 天王みどり学園

## — 秋田県高校PTA連合会 広報紙コンクール —

1月15日(木)県高P連事務局で広報紙の審査会が開催された。初応募が2校、数年ぶりが2校、計13校の応募。調査広報委員9名による審査の結果、下記の通り決定し、最優秀賞、優秀賞の3紙は、1月30日(金)、31日(土)、山形市で開催される東北地区コンクールへ推薦された。また、奨励賞3紙を含む入賞6紙は、平成27年度県高P連総会で表彰される。

なお、次回応募対象は、平成27年1月から12月まで発行される広報紙、各校1紙とする。



県立養護学校 天王みどり学園

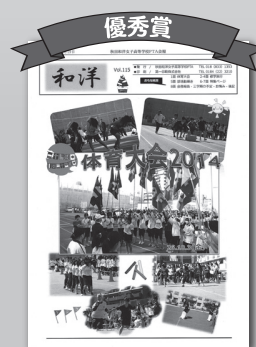
**最優秀賞** 県立養護学校 天王みどり学園

**優秀賞** 県立横手清陵学院高校  
秋田和洋女子高校

**奨励賞** 県立新屋高校  
県立本荘高校定時制課程  
県立大館工業高校



県立横手清陵学院高校



秋田和洋女子高校

## コラム

全国的な知名度となった湯沢市うどんエキスポへは、全国のうどんを味わいたくて、毎年参加しています。会場で印象に残っているのは、うどんの味もさることながら、高校生ボランティアの頑張る姿です。呼び込み・盛り付け・ごみ回収など、みんな真面目に楽しそうに活躍しています。会場の各所で行われている路上パフォーマンスでも、高校生が大活躍しています。高校生の頑張りを見ていると、日本の将来も明るく感じてくる今日この頃です。

(平成高校 吉田正光)

PTA役員になり、学校の先生方と話をすることが多くなった。一番気付いたことは自分が学校について知らないことが沢山あるということ。3番目の子になって気付き、なんと鈍感なんだろうと思っている。学校から連絡、お知らせ、通信など沢山いただいているのに、文字を追っているだけで、深く理解していなかったようだ。限られた時間だが、参加できる行事には精一杯参加していこうと張り切っている。

(羽後高校 小野 勝)

ベルリンの壁が崩壊したとき私はドイツにいましたが、誰もベルリンの壁が無くなるなどとは考えておらず、「ヨーロッパピクニック」といわれる現象がおこると、あっという間に壁は崩壊してしまいました。

私が高校1年生の時分、ガルブレイスの「不確実性の時代」という本が日本でベストセラーとなりましたが、まさに「不確実な時代」を目の当たりにした感がありました。

あれから四半世紀、「光陰矢のごとし」とは名言であると、つくづく思うこの頃です。

(大館鳳鳴高校 桑名秀明)

湯沢市で毎年秋に開催しております「全国まるごとうどんエキスポ」は、多くの高校生ボランティアの協力により運営されております。

高校生らしい元気で爽やかな「おもてなしの心」がご来場頂くお客様に、毎年高い評価を受けるようになっております。秋田商業高校との共同で開発したうどん創作料理では、豊かな発想力に感心を致しました。

イベントを通して、地域と学校が一体となり交流人口の拡大に寄与していければと考えております。

(秋田商業高校 佐藤正明)

年末、久しぶりに娘の応援で横浜へ、家内と娘達そして孫を引き連れ行ってきました。結果は、かんばしくなく残念でしたが、せっかく横浜まで来たからということで、アンパンマンミュージアムや遊園地などにも寄ってくることに。数々の絶叫マシンにも、孫達と年甲斐もなく挑戦してきました。たいへんな恐怖感でしたが、気分は最高でした!みなさんも、たまには出かけてみてはいかがですかー!!

(秋田和洋女子高校 加瀬幸雄)

以前、体調が思わしくない私に夫が、「大丈夫? からだ大事にしるよ」と。「あなた優しいのね」と返す私に、「お前が倒れたら俺が困る」と。その半笑いの表情から、照れ隠しであったと思いたい。けれど、実際その通り。きっとどこか家庭も「おっ母」が倒れたら日常生活に大きな被害を与えることだろう。

誰が聞いても多忙とわかる著名人たちが資格をとっている話をテレビでしていた。みな口々に、勉強する時間を「つくる」というのだ。「時間がない」と言い訳せず、運動の時間を作る。決意表明。

(能代養護学校 佐藤さち子)



# 国民文化祭・あきた2014

平成26年10月4日(土)～11月3日(月・祝)



## 県内6高校による 書道パフォーマンス

あきた2014「美術展」の関連イベントとして、10月5日秋田拠点センターアルヴェにおいて書道パフォーマンスが行われました。『東北の力・秋田の想い～想いを筆に託して～』をテーマに、県内高校6校(秋田西・角館・西目・増田・能代松陽・大曲)が出場し、被災地の方々を招いての発表となりました。各校とも「輝」「勇気」「希望」などの大字をカー杯揮毫し、「自分らしいヒカリ発信していこう」「東北魂」などの言葉とパフォーマンスで秋田での国文化祭開催を祝い、被災地に向けて力強くメッセージを送ることができました。

県立能代松陽高校 池端 千佳



## 食文化フォーラム

10月19日に横手市のふるさと村で行われた、第29回国国民文化祭あきた2014食文化フォーラムに1年生8名が参加した。秋田を代表する料理人と共に、ドーム劇場のステージで秋田の伝統料理を作るというイベントだ。出場が決まってから事前学習にも取り組み、セントラルホテルで総料理長から直接調理の知識や技術を学び、学校でも放課後に練習を行うなど研修を重ねた。当日、県内3地区がブースに分かれて調理し、本校生徒はきりたんぼ鍋、北限のフグ鍋、松茸ごはん、あずき汁を担当した。舞台上立つと生徒は緊張した様子だったが、いざ調理が始まると料理人の指示の下、食材の下処理や切る作業などをてきぱきとこなし、会場に集まった観客300人の前で堂々と大役を果たした。生徒は「緊張したけど、うまくできてよかった。勉強になることがたくさんあった。」と感想を述べていた。国民文化祭で料理人と共に調理をしたことは、生徒が大きく成長する有意義な場となった。この経験を今後の生活に活かしてほしい。

横手城南高校 食物部



## 部員たちの成長

和洋高校郷土文化部は、各種イベント、由利本荘市での人形劇フェス、閉祭式のミュージカル出演と、様々な機会国民文化祭に参加させていただきました。

4人しかいなかったため、部員一人一人がそれぞれ何役もこなす形でやってきました。活動を通して、あどけなかった部員がみるみる頼もしく成長するのがわかりました。少人数は弱点ではない、と気づかせてくれた国民文化祭と部員たちに心から感謝しています。

秋田和洋女子高校 高階 奈緒子